

令和3年度 経済動向調査報告書

令和3年第1四半期

(2021年4月～6月期)

一迫花山商工会

経済動向調査報告書

1. 調査分析資料

①栗原市 人口の推移（2020年度）

統計でみる栗原（令和2年版）

②中小企業庁 中小企業景況調査（第164回 2021年4～6月期）

③宮城県 宮城県の経済動向（令和3年第2四半期 4～6月期）

④宮城県商工会連合会 宮城県商工会地区中小企業景況調査報告書

（2021年4月～6月期）

⑤一迫花山商工会 地域経済動向調査（令和3年度第1四半期）

2. 調査対象期間

2021年4月～6月期

3. その他

資料内のDIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（上昇・好転）企業割合と減少（低下・悪化）企業割合の差を示すものとなっています。

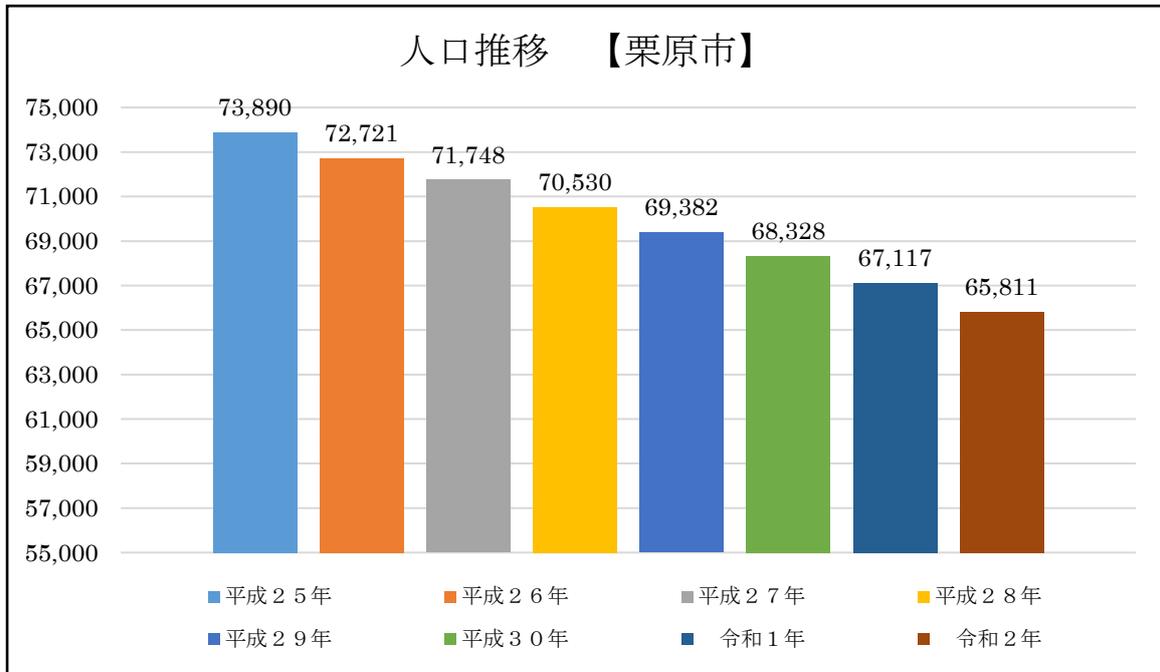
DIは強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを示すもので、売上額や売上単価の実数値の上昇率とは異なります。

DI = 増加（上昇・好転）企業割合 - 減少（低下・悪化）企業割合

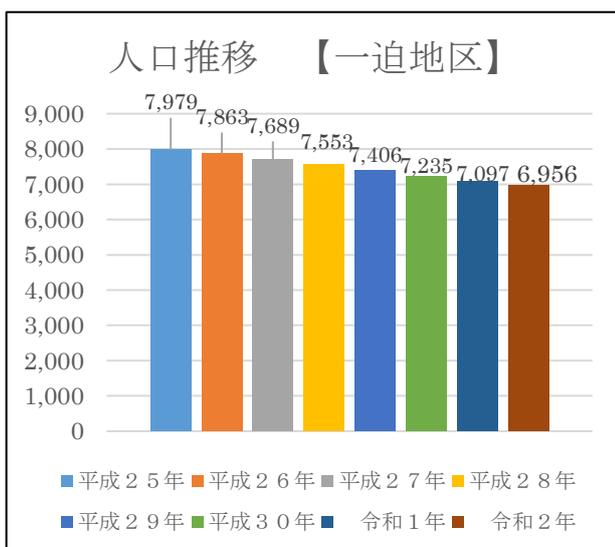
1. 栗原市の地域状況について

(1) 栗原市の人口推移

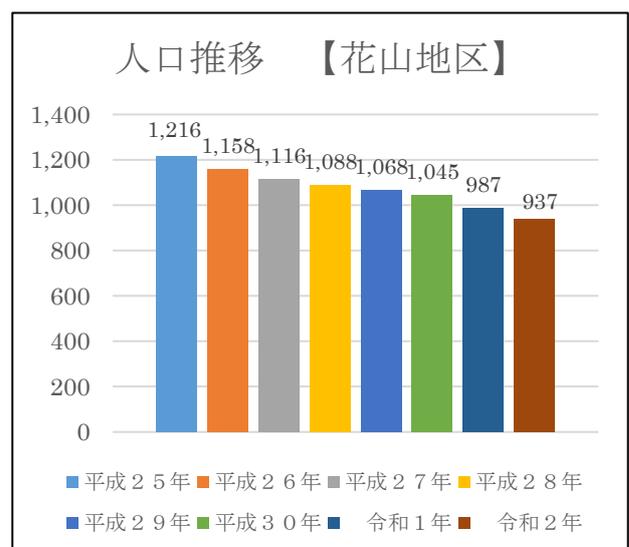
①栗原市全域



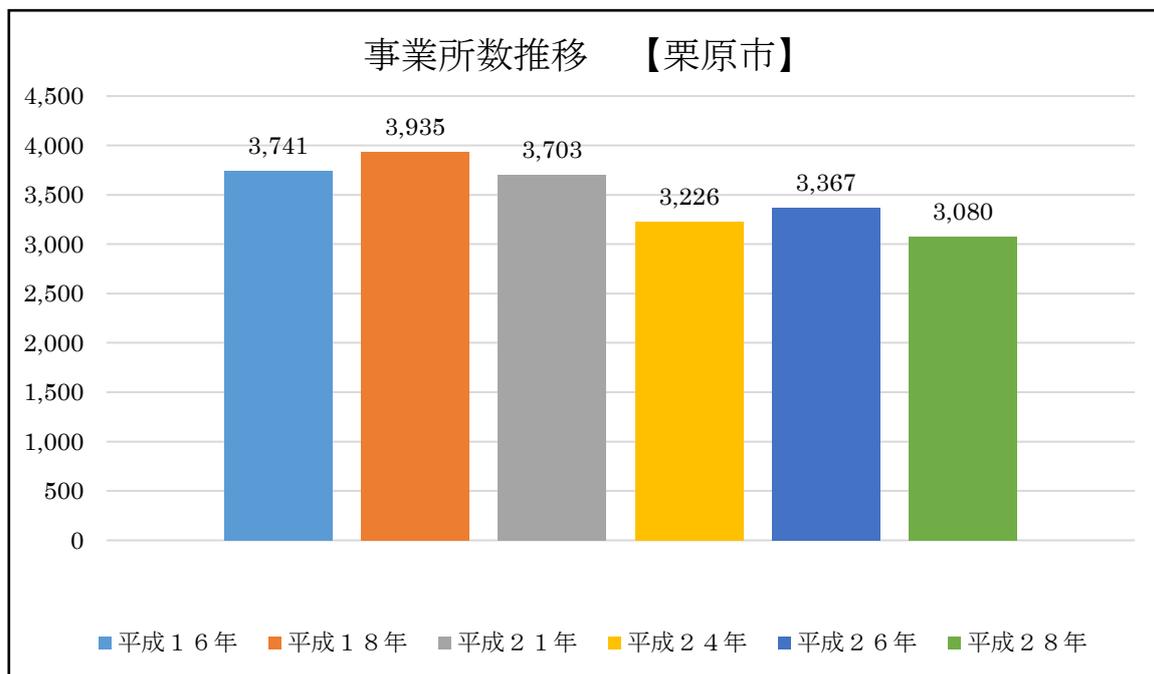
②一迫地区



③花山地区



(2) 栗原市の事業所数推移



令和2年の栗原市全域の人口は65,811人となっており、前年から約1.9%の減少であった。なお、地区別人口では築館13,140人、若柳11,576人、栗駒10,289人、一迫6,956人、志波姫6,699人、金成6,329人、瀬峰4,171人、高清水3,543人、鶯沢2,171人、花山937人となっており、全地区で人口が減少している。

一迫地区の人口を見ると、令和2年人口は6,956人となっており、平成25年から約12.8%の減、前年から約2.0%の減となっている。また、世帯数は2,542世帯（世帯平均2.7人）で、世帯数は維持しているが、世帯平均人数は減少が続いている。

花山地区の人口を見ると、令和2年人口は937人となっており、平成25年から約22.9%の減、前年から約5.0%の減となっている。なお、世帯数は413世帯（世帯平均約2.2人）で、世帯数も減少している。

年齢別人口を見ると、栗原市全域の65歳以上は26,352人で市内人口の約40%を占めており、割合は1.0%増加している。また、一迫地区では3,145人で地区人口の約45.2%、花山地区では522人で地区人口の約55.7%となっており、ともに高齢者の割合は増加している。

栗原市内事業所数は平成18年から減少が続き、平成26年には増加となったが、平成28年は平成26年より287事業所の減となった。産業別の事業所数としては、農林漁業57、建設業368、製造業268、電気・水道業1、情報通信業8、運輸業・郵便業66、卸売・小売業876、金融・保険業35、不動産業77、専門・技術サービス業92、宿泊・飲食業337、生活関連サービス324、教育・学習支援業56、医療・福祉241、複合サービス事業45、その他サービス業229となっている。平成26年と比べると複合サービス事業のみが増加、他の業種は減少傾向となっている。

2. 中小企業の景況について【全国】

【中小企業の業況判断DIは、2期ぶりに上昇した。】

- (1) 全産業の業況判断DIは、▲25.8（前期差 3.7 ポイント増）となり、2期ぶりに上昇した。
- (2) 製造業の業況判断DIは、▲17.2（前期差 7.8 ポイント増）となり、4期連続して上昇した。業種別に見ると、木材・木製品、食料品、金属製品など12業種で上昇し、窯業・土石製品、化学の2業種で低下した。
- (3) 非製造業の業況判断DIは、▲28.8（前期差 2.4 ポイント増）となり、2期ぶりに上昇した。産業別に見ると、卸売業、サービス業、建設業、小売業のすべての産業で上昇した。
- (4) 全産業の長期資金借入難易度DIは、▲5.2（前期差 2.3 ポイント減）と3期連続して低下し、短期資金借入難易度DIは、▲3.5（前期差 1.0 ポイント減）と2期連続して低下した。

（中小企業庁 第164回中小企業景況調査より）

・業況判断（前期比・季節調整済み）

	製造業			建設業			卸売業			小売業			サービス業		
	中	小	小	中	小	小	中	小	小	中	小	中	小	小	
好転	15.7	20.4	14.0	9.7	9.0	9.8	14.0	17.1	10.6	8.2	9.3	8.1	9.2	10.6	8.8
不変	50.7	51.0	50.5	63.9	70.2	62.6	51.1	54.9	46.7	49.0	50.9	48.7	50.1	50.7	50.0
悪化	33.6	28.6	35.5	26.4	20.8	27.6	34.9	28.0	42.7	42.8	39.8	43.2	40.7	38.7	41.2
DI	▲17.2	▲6.7	▲20.7	▲13.9	▲4.2	▲16.1	▲19.3	▲10.0	▲29.6	▲35.3	▲27.9	▲36.2	▲32.3	▲26.2	▲33.8

中＝中小企業 小＝小規模企業

・経営上の問題点

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞	材料価格の上昇	需要の停滞	需要の停滞	需要の停滞
2位	原材料価格の上昇	従業員の確保難	仕入単価の上昇	消費者ニーズの変化への対応	利用者ニーズの変化への対応
3位	生産設備の不足・老朽化	民間需要の停滞	その他	その他	その他

・業種別主要 DI 時系列表

①全産業

	2020年			2021年		前期差
	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	
業況判断 DI	▲63.0	▲34.0	▲27.1	▲29.5	▲25.8	3.7
売上額 DI	▲67.0	▲26.6	▲24.8	▲26.8	▲25.4	1.4
売上単価 DI	▲36.1	▲17.2	▲16.6	▲17.4	▲14.5	2.9
商品仕入単価 DI	8.1	13.0	13.2	15.6	28.7	13.1
採算 DI	▲64.1	▲55.4	▲45.2	▲43.8	▲27.2	16.6

全産業の主要 DI については、業況判断 DI・売上額 DI・売上単価 DI・商品仕入単価 DI・採算 DI の全てが上昇した。

②製造業

	2020年			2021年		前期差
	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	
業況判断 DI	▲65.2	▲39.9	▲29.5	▲25.0	▲17.2	7.8
売上額 DI	▲66.1	▲34.7	▲27.1	▲20.7	▲14.1	6.6
売上単価 DI	▲18.1	▲12.3	▲10.4	▲9.4	▲3.7	5.7
商品仕入単価 DI	14.8	15.7	17.9	26.6	44.7	18.1
採算 DI	▲65.9	▲62.3	▲51.9	▲42.9	▲20.9	22.0

Pick up

○売上げ（加工）数量の動向（前期比・季節調整済）

	製造業		
		中	小
増加	23.1	28.2	21.2
不変	38.4	37.8	38.6
減少	38.5	34.0	40.2
DI	▲16.4	▲4.0	▲21.0

製造業は、主要 DI のマイナス幅が4期連続で縮小した。
 企業コメントでは、新型コロナウイルス感染症の影響による長期の需要停滞に加え、原材料等の値上がりの影響を心配する声等のマイナスコメントが目立った。
 食料品製造業では、内食需要増加の影響により好調等のコメントも挙げられた。

③建設業

	2020年			2021年		前期差
	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	
業況判断 DI	▲33.0	▲21.5	▲17.1	▲14.3	▲13.9	0.4
売上額 DI	▲32.3	▲23.5	▲18.4	▲14.3	▲15.3	▲1.0
売上単価 DI	-	-	-	-	-	-
商品仕入単価 DI	26.8	24.3	23.3	26.5	47.2	20.7
採算 DI	▲37.2	▲32.9	▲28.1	▲22.7	▲21.7	1.0

Pick up

○従業員数の動向（今期の水準）

	建設業		
		中	小
過剰	2.5	4.8	2.0
適正	65.8	51.1	68.8
不足	31.7	44.4	29.2
DI	▲29.2	▲39.3	▲27.2

建設業では、売上額 DI を除くすべての主要 DI のマイナス幅が縮小した。

各企業のコメントでは、ウッドショックによる建築木材輸入量の大幅な減少に加え、材料単価の値上がりを不安視する声が多く挙げられた。

④卸売業

	2020年			2021年		前期差
	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	
業況判断 DI	▲64.5	▲37.3	▲21.9	▲27.7	▲19.3	8.4
売上額 DI	▲65.3	▲29.7	▲17.2	▲23.9	▲20.4	3.5
売上単価 DI	▲18.9	▲8.9	▲7.3	▲3.5	3.4	6.9
商品仕入単価 DI	8.1	9.3	11.8	17.6	28.4	10.8
採算 DI	▲66.3	▲59.6	▲46.4	▲39.4	18.7▲	20.7

Pick up

○製品・商品在庫の動向（今期の水準）

	卸売業		
		中	小
過剰	23.4	23.0	23.8
適正	71.6	73.4	69.6
不足	5.0	3.6	6.6
DI	18.4	19.4	17.2

卸売業では業況判断・売上額・採算 DI のマイナス幅が縮小し、売上単価・商品仕入単価 DI が上昇した。

各企業のコメントでは、前期に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響による消費低迷等のコメントに加え、原材料の高騰による影響を心配する声等のマイナスコメントが目立った。

⑤小売業

	2020年			2021年		前期差
	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	
業況判断 DI	▲67.7	▲35.8	▲32.5	▲35.4	▲35.3	0.1
売上額 DI	▲72.6	▲26.7	▲30.3	▲32.6	▲34.6	▲2.0
売上単価 DI	▲48.6	▲24.5	▲26.2	▲24.8	▲25.2	▲0.4
商品仕入単価 DI	▲3.7	4.7	5.0	6.8	16.3	9.5
採算 DI	▲67.3	▲54.7	▲44.6	▲46.2	▲36.3	9.9

Pick up

○客数の動向（前期比・季節調整済）

	小売業		
		中	小
増加	13.8	14.6	13.7
不変	36.7	39.2	36.3
減少	49.5	46.2	50.0
DI	▲40.1	▲33.5	▲41.0

小売業は、売上額・売上単価 DI が低下、業況判断・商品仕入単価・採算 DI が上昇した。

企業コメントでは、新型コロナウイルス感染症の影響による長期の需要停滞に加え、新しい生活様式の定着による消費者の意識変化を感じる等のコメントが挙げられた。

⑥サービス業

	2020年			2021年		前期差
	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	
業況判断 DI	▲70.6	▲32.4	▲26.6	▲35.6	▲32.3	3.3
売上額 DI	▲77.3	▲21.6	▲22.4	▲32.8	▲31.6	1.2
売上単価 DI	▲43.4	▲17.2	▲15.8	▲20.8	▲17.6	3.2
商品仕入単価 DI	4.6	13.8	11.9	9.1	18.5	9.5
採算 DI	▲70.7	▲59.0	▲47.3	▲51.8	▲29.0	22.8

Pick up

○利用客数の動向（前期比）

	サービス業		
		中	小
好転	14.0	12.3	14.4
不変	40.7	47.6	38.9
悪化	45.3	40.1	46.7
DI	▲35.1	▲27.3	▲37.2

サービス業はすべての主要 DI のマイナス幅が縮小した。
企業コメントでは、3回目の緊急事態宣言発令に伴う大幅な需要の停滞等、依然として厳しい状況である等のマイナスコメントが前期に引き続き挙げられた。

（中小企業庁 第164回中小企業景況調査より）

3. 中小企業の景況について【宮城県】

「みやぎ経済月報」は、主要な基礎資料である「みやぎの雇用と賃金」（毎月勤労統計調査）の再集計に伴い、令和3年6月1日公表（令和3年6月24日訂正）分をもって公表を見合わせております。

（宮城県 宮城県の経済動向 四半期報より）

4. 全国・東北ブロック及び宮城県の景況、今後の見通しについて

(1) 全国、東北ブロック及び宮城県の景況

①売上額

宮城県の今期売上額 DI は全業種でマイナス値（全国、東北同様）であった。前期との比較では、全業種でとなった。

宮城県の全国、東北との売上額 DI 比較では、製造業・建設業で全国・東北以下、小売業では全国以下、東北より若干の下、サービス業では全国・東北以上であった。

②採算

宮城県の今期採算 DI も全業種でマイナス値（全国、東北同様）であった。前期との比較では、製造業・小売業・サービス業で改善、建設業では悪化となった。

全国、東北との採算 DI 比較では、製造業・建設業・小売業で全国・東北以下、サービス業では全国・東北以上であった。

（宮城県商工会連合会 宮城県商工会地区中小企業景況調査報告書 2021年4月～6月期より）

(2) 県下産業別の景況

①製造業

	全国			東北			宮城		
	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し
売上額 DI	▲45.6	▲10.7	▲13.3	▲50.3	▲ 8.6	-	▲43.7	▲18.8	▲43.7
採算 DI	▲39.4	▲20.3	▲18.8	▲51.0	▲24.5	-	▲50.0	▲34.3	▲46.9

製造業の売上額 DI は全国・東北・宮城すべてで改善。採算 DI についても全国・東北・宮城すべてで改善となった。

来期の見通し売上額 DI は全国・宮城で悪化。採算 DI については全国で改善、宮城で悪化の見込みとなっている。

経営上の問題点として挙げられていたのは、「需要の停滞」（20.0%）、次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」（16.7%）、「原材料価格の上昇」、「製品ニーズの変化」、「熟練技術者の確保難」、「その他」が同率（10.0%）で続いた。

②建設業

	全国			東北			宮城		
	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し
売上額 DI	▲21.7	▲14.8	▲25.6	▲22.5	▲ 8.1	-	▲36.0	▲20.0	▲28.0
採算 DI	▲20.9	▲19.9	▲24.0	▲25.2	▲20.2	-	▲32.0	▲36.0	▲28.0

建設業の売上額 DI 全国・東北・宮城すべてで改善。採算 DI については全国・東北で改善、宮城で悪化となった。

来期の見通し売上額 DI は全国、宮城で悪化。採算 DI については全国で悪化、宮城が改善の見込みとなっている。

経営上の問題点として挙げられたのは、「民間需要の停滞」(22.7%)、次いで「新規参入業者の増加」が(18.2%)、「材料価格の上昇」が(13.6%)で続いている。

③小売業

	全国			東北			宮城		
	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し
売上額 DI	▲50.2	▲27.5	▲35.3	▲54.1	▲38.1	-	▲63.6	▲38.6	▲45.5
採算 DI	▲43.5	▲36.8	▲34.7	▲49.5	▲46.9	-	▲61.3	▲51.2	▲46.5

小売業の売上額 DI は全国・東北・宮城すべてで改善。採算 DI についても全国・東北・宮城すべてで改善となった。

来期見通しでは売上額 DI は全国・宮城で悪化。採算 DI については全国、宮城で若干の改善見込みとなっている。

経営上の問題点として挙げられたのは、「需要の停滞」(26.8%)、次いで「消費者ニーズの変化」と「購買力の他地域への流出」が(14.6%)で続いている。

④サービス業

	全国			東北			宮城		
	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し	前期	今期	見通し
売上額 DI	▲61.1	▲15.9	▲28.6	▲58.6	▲20.5	-	▲54.2	▲ 6.4	▲12.8
採算 DI	▲52.6	▲29.7	▲31.1	▲51.9	▲31.1	-	▲52.1	▲21.2	▲15.2

製造業の売上額 DI は全国・東北・宮城すべてで改善。採算 DI についても全国・東北・宮城すべてで改善となった。

来期見通しでは売上額 DI は全国・宮城で悪化。採算 DI については全国で悪化、宮城で改善の見込みとなっている。

経営上の問題点として挙げられたのは、「需要の停滞」が(38.6%)、次いで「利用者ニーズの変化」が(22.7%)、「その他」が(13.6%)、で続いた。

一迫花山商工会 地域経済動向調査

【調査実施要領】

①調査目的

経営発達支援計画に基づき実施する本調査は、商工会会員事業所の経済動向及び課題、要望等を把握し、今後の小規模事業者支援の基礎資料として活用する。

②調査対象

商工会会員事業所の中から25事業所を抽出。

・対象事業者の構成

	会員数	比率	調査事業所数
小売業	69	27,4%	7
建設業	77	30,5%	7
製造業	28	11,1%	3
サービス業	38	15,1%	4
その他	40	15,9%	4
合計	252		25

③調査実施時期

- | | |
|-----------------------|-----------|
| (1)第1四半期調査 (4月～6月期) | 令和3年7月実施 |
| (2)第2四半期調査 (7月～9月期) | 令和3年11月実施 |
| (3)第3四半期調査 (10月～12月期) | 令和4年2月実施 |
| (4)第4四半期調査 (1月～3月期) | 令和4年5月実施 |

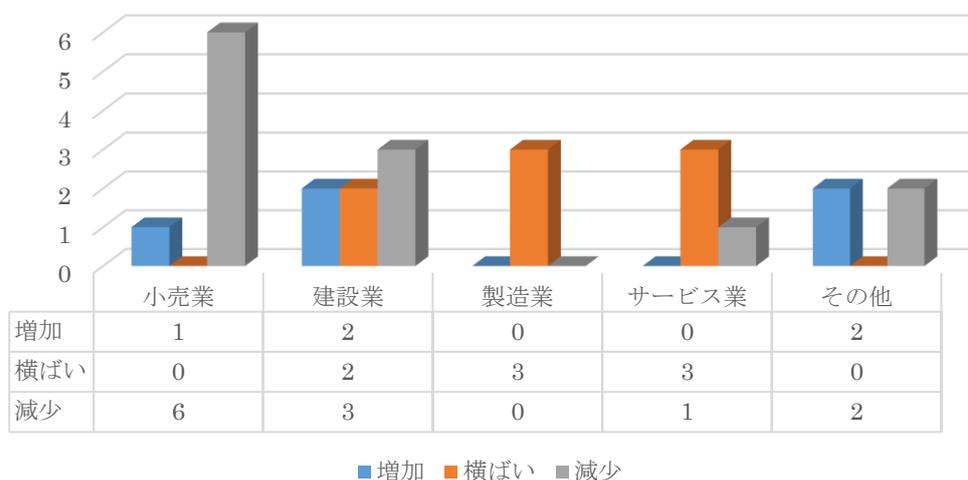
④調査の方法

商工会各職員により対象事業所への巡回訪問等による調査票の配布。
職員による巡回訪問及びFAXによる回答。

1. 令和3年度第1四半期調査結果（2021年4月～6月期）

①売上高（前期対比）

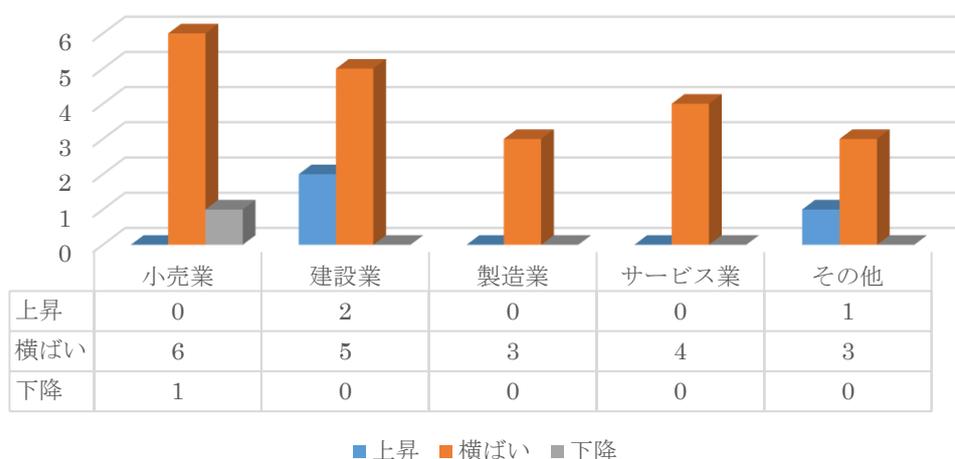
売上高



- 回答数は「増加」の事業所が5件、「横ばい」8件、「減少」12件となっており、非常に厳しい状況が続いている。
- 「減少」の要因として事業者からは、前期に続く新型コロナウイルス感染症の影響による需要の停滞、地域の人口減少による影響などが挙げられた。

②製品・商品販売単価（前期対比）

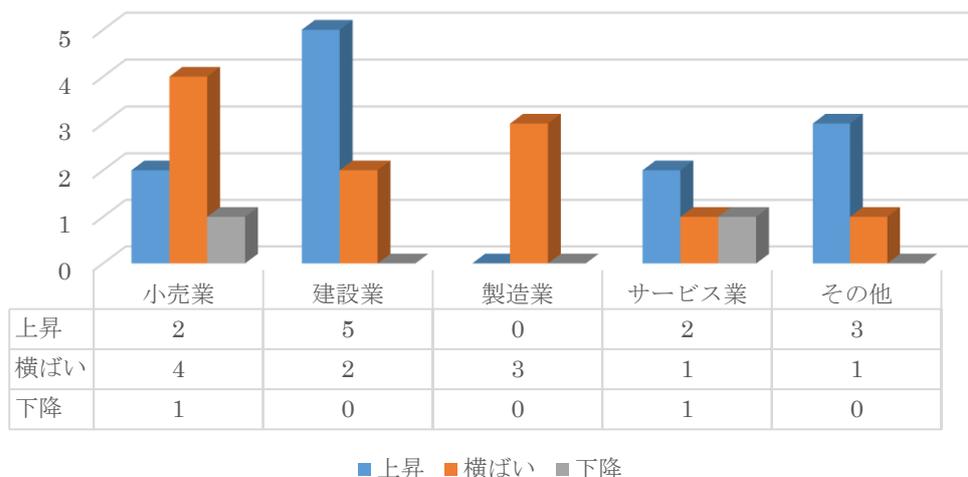
製品・商品販売単価



- 回答数は、「上昇」3件、「横ばい」21件、「下降」1件となった。
- 製品・商品販売単価は前期調査同様、多くの事業所が「横ばい」であった。
- 「上昇」と回答した事業者からは競合他社による価格競争の影響などが挙げられた。

③原材料・仕入価格

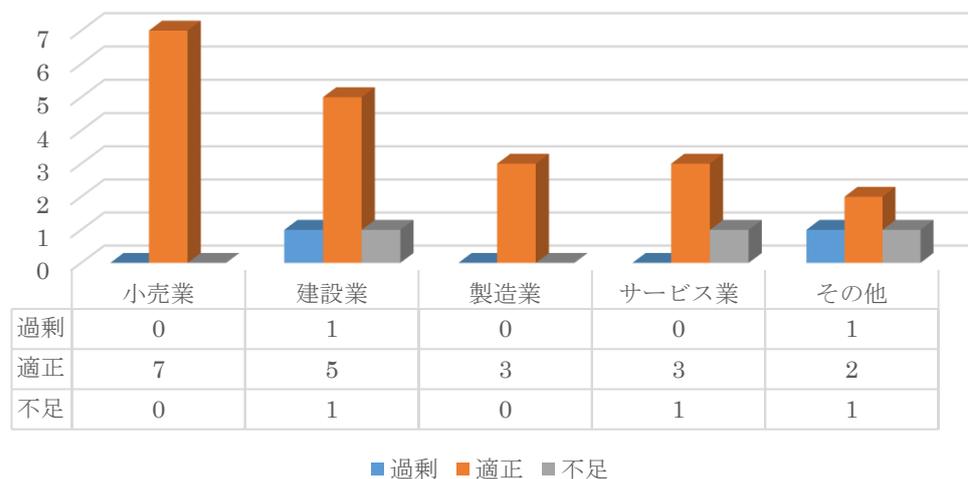
原材料・仕入価格



- 回答数は、「上昇」12件、「横ばい」11件、「下降」2件となった。
- 「上昇」12件と、長期的な原材料・仕入価格の高騰が続いている。

④製品・商品在庫

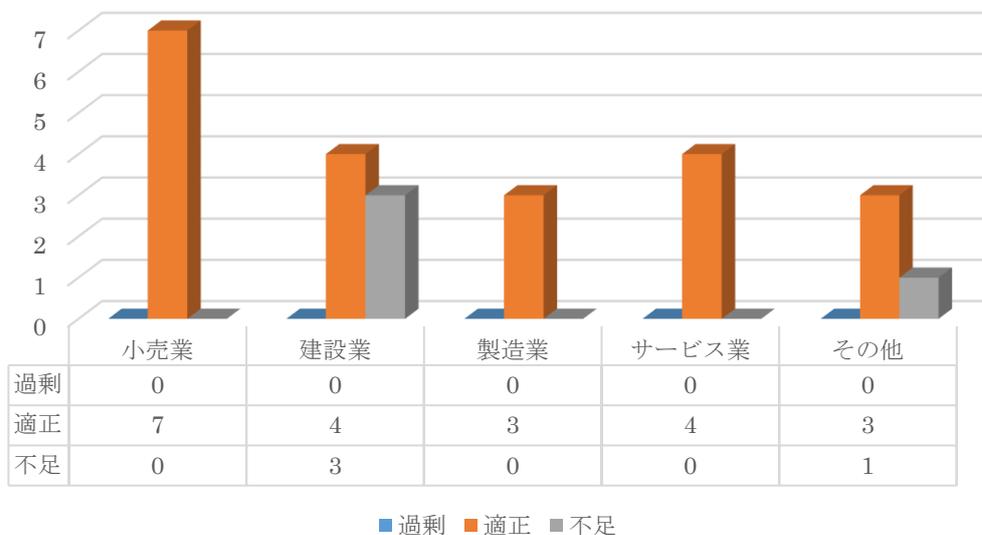
製品・商品在庫



- 回答数は、「過剰」2件、「適正」20件、「不足」3件となった。
- 多くの事業所が「適正」と回答しており、適正在庫を維持していると思われる。

⑤労働力

労働力

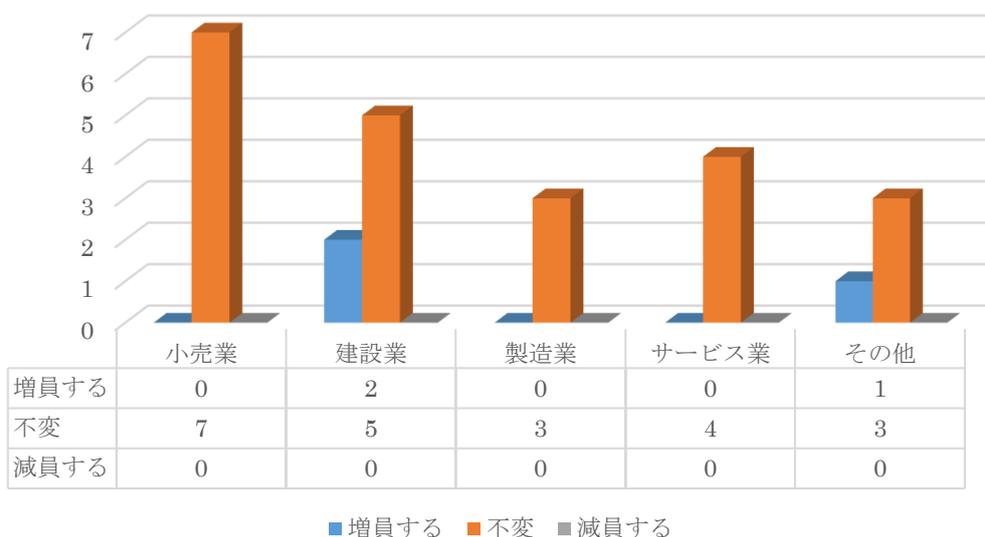


○回答数は、「過剰」0件、「適正」21件、「不足」4件となった。

○多くの事業所は「適正」を維持している。

⑥従業員数（今後の予定）

従業員数

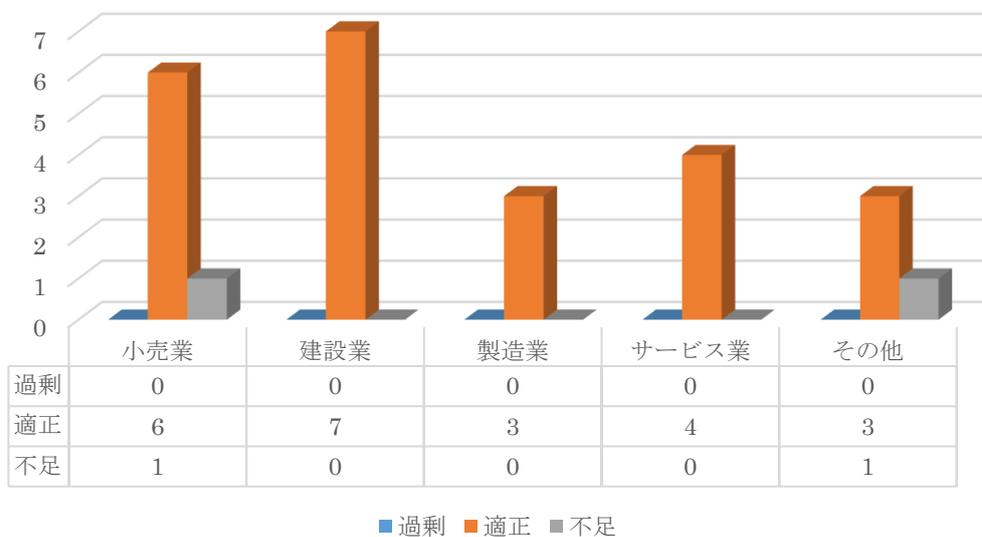


○回答数は、「増員する」3件、「不変」22件、「減員する」0件となった。

○多くの事業所が「不変」22件で現状維持となっている。

⑦生産・営業用設備

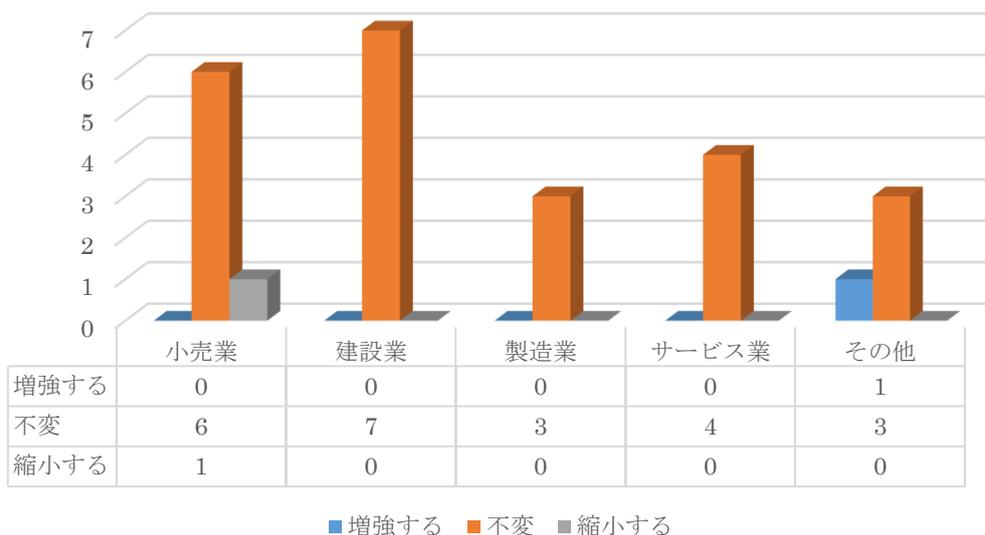
生産・営業用設備



- 回答数は、「過剰」0件、「適正」23件、「不足」2件となった。
- 「不足」の事業者では設備の老朽化が進んでいることが主な要因となっている。

⑧生産・営業用設備（今後の予定）

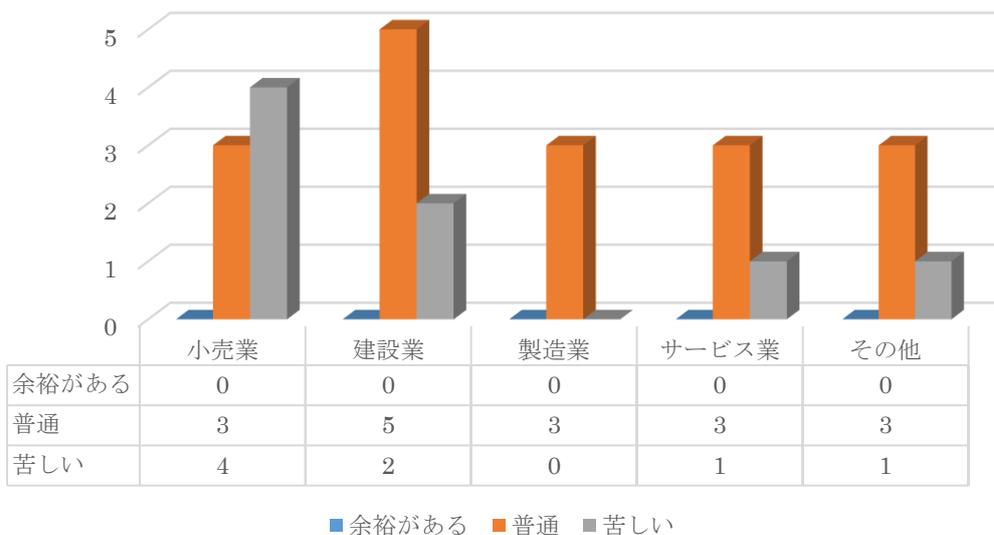
生産・営業用設備（今後の予定）



- 回答数は、「増強する」1件、「不変」23件、「縮小する」1件となった。
- 多くの事業所が「不変」23件で現状維持となっている。

⑨資金繰り

資金繰り

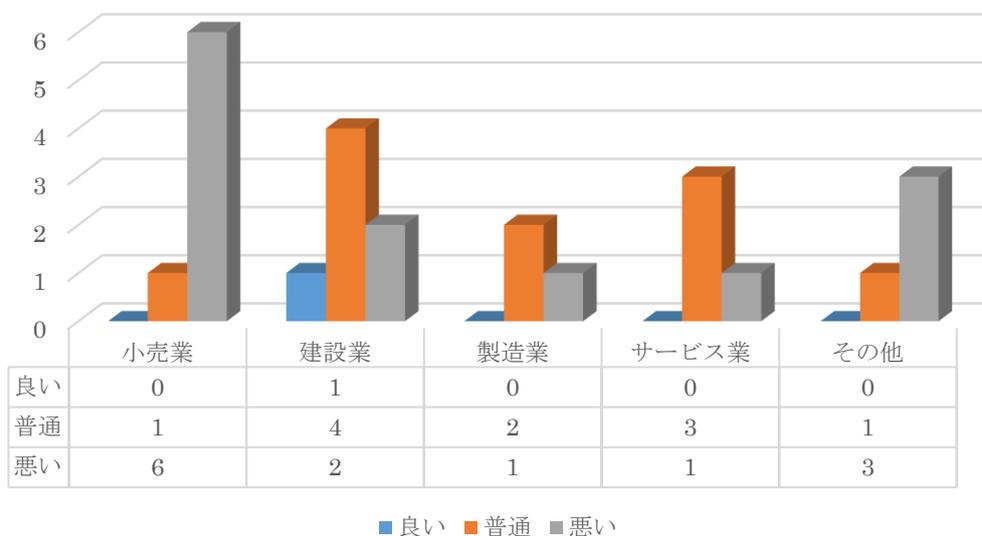


○回答数は、「余裕がある」0件、「普通」17件、「苦しい」8件となった。

○「苦しい」と回答した理由として、新型コロナウイルス感染症の影響による需要の停滞、取引先からの入金の遅れによる影響などが挙げられた。

⑩事業所の業況（来期見通し）

事業所の業況（来期見通し）

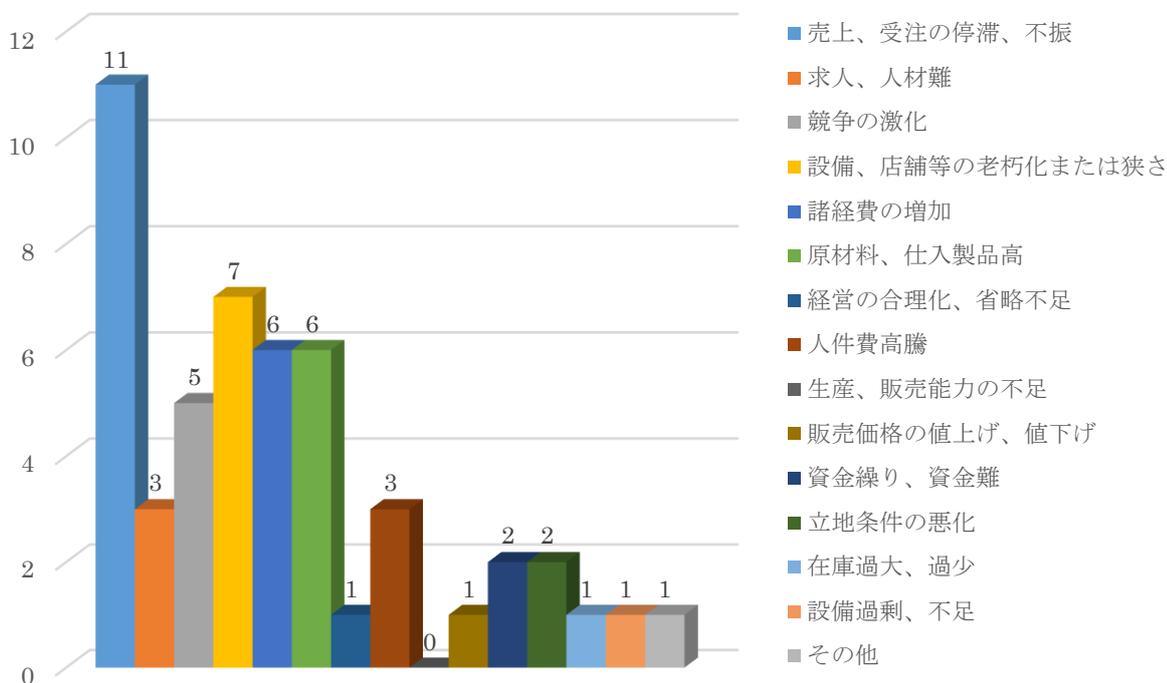


○回答数は、「良い」1件、「普通」11件、「悪い」13件となった。

○「悪い」13件と回答した事業者から、新型コロナウイルス感染症の影響によるマイナスコメントが挙げられた。

⑪経営上の課題

経営上の課題



- 「売上、受注の停滞、不振」11件の割合が最も多い結果となった。
- 「設備・店舗等の老朽化または狭さ」が7件で続いている。
- 依然、長期に新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、経営課題は山積している状況である。

⑫期待する公的支援策など

- ・中小小規模事業者向け経営支援施策。
- ・新型コロナウイルス感染症対策情報。

宮城県では新型コロナウイルス感染症再拡大による独自の緊急事態宣言が発出され、特にゴールデンウィーク時期の消費活動が大きく落ち込むなど、引き続き厳しい経済状況下にある中、調査を実施した。

栗原市では地域住民の高齢化や人口減少による影響に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による消費停滞が長期に続いており、依然として景気回復の兆しが見えない厳しい調査結果となっている。

今後も新型コロナウイルス感染症による影響が懸念される状況下において、個店ごとのニーズに応じた支援に加え、新しい生活様式に対応する為の各種支援施策の拡充、周知等が求められている。